

平成29年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



月ノ形象(油彩)1932年



月の形象(木版)1933年

「月ノ(の)形象」

「和歌山美術館が鷹山版画を二点譲って下さるそうです」と、いつも冷静な学芸員大池が少し興奮して報告してきたのは、今から十年前の話である。
 父は、「何枚も摺れる版画は価値が薄い」と言っていて、納得する摺りが一枚仕上がる元版木を割っていた。多色摺りは何枚も彫り上げるので当然採算がとれる部数を摺る。浮世絵版画のように、絵師、彫師、摺師と専門職人が分業していたときならともかく、明治以降一人で三役を担う版画家たちは大仕事をしている。父の版画作品は一点しかないと思っていた私は、半信半疑でその話を聞いていたが、すぐさま和歌山から二点とも送られてきた。

この木版「月の形象」は「対」になる油彩「月ノ形象」がある。一九三二年、父をはじめとする二科会の若手前衛作家たちが結成した「新油繪の会」第一回展に、この油彩の「月ノ形象」が出品された。

「形象」とは「美的な対象としてのモノの姿」「感覚器官で捉えられた物の姿」と記されている。天照大神の弟、月神で月読尊(つきよみのみこと)のように、元来日本において月は男性名詞であるが美的対象は性別に関係はない。二枚の「月ノ(の)形象」をじつと見ると実に不思議な月の輪郭である。「メビウスの輪」のように無限に廻っている。描かれているのは花か人物か不明であるが、何となく美しく「美的対象」となっているのは確かである。

美術館の根幹である収蔵作品が、収集主旨と異なり雑多雑然であつても「了」としている館もあれば、所有作品の幸せを常に願っている、そんな懐の深さを持った美術館もあるのだと、和歌山美術館に示教を受けた。館長はじめ、学芸課長、担当学芸員には感謝の言葉もない。

小さな町の小さな美術館であるが、恩義に応えられるような志高い美術館活動をしていきたいと、改めて思う。

館長 鷹山 ひばり

平成29年度研修旅行「茨城・千葉美術鑑賞の旅」(6月13日〜15日実施)に参加された会員20名の方々から一言感想文をお寄せ頂きましたので前号に続いてご紹介いたします。

田中洋子・七戸町
 偕楽園は日本三名園だけあって建造物、お庭も素晴らしかったです。ホキ美術館では画家たちがそれぞれ特徴を活かし、人物の髪1本1本肌のしわまで細部にわたって表現されていて、感動しました。2日目は成田空港の側のホテルで飛行機が飛びかう所を見ながらの食事で、初めての経験で豪華な気分を味わうことが出来ました。又の機会を楽しみにしております。



笠間市・春風萬里荘

戸館榮一・七戸町
 五浦の六角堂のほか笠間日動美術館、ホキ美術館では、すばらしい作品に感動を新たに。川村美術館では屋外彫刻も楽しめました。思わず舌鼓を打ったランチや成田空港発着のジェット機を眺め、はるかパリに思いを馳せながらの夕食は絶品。眼も舌も楽しめた3日間でした。

戸館洋子・七戸町
 お天気に恵まれた、とても満足(まんぷく)な3日間でした。絵画はもちろんです、食事も特にランチは器もお洒落で本当に素敵なアウトの旅でした。写真をお見せ出来ないことが残念です。

中野久子・十和田市
 今回の美術鑑賞の旅は「個人で出かけるには、ややこしい場所にある」「いつも気がかりでした。念願叶い、天心、大観等の美術研究所、六角堂や海辺の景色等見学出来て感激!!二日目、三日目も同じく来てよし、見てよし、食べてよしでした。謝々。次回は伊豆、伊東、天竜市にある美術館巡りも検討下さればと思います。

中村昭雄・弘前市
 海の外もと思う。足、腰が「早いほうがいいよ」と言ってるのだが、オットット脳もだ。今の世情ではなあーと返答している。
中村規和子・弘前市
 また行くよ。足腰に言い聞かせています。



ホキ美術館

中村初子・十和田市
 五浦の風景がとても心に残っています。一人で行くには大変な所なので、計画された方々に感謝です。食事でも美味しく楽しかったです。また楽しいツアー計画を待っています。

中村登美子・八戸市
 友の会の企画された鑑賞地は普段なかなか訪れることが出来にくい所。美術館はもとより、それに付随したホテル、特に食事(料理)は芸術的



DIC川村美術館

で感動的でした。「感性に筋力をつけよ」と言われ、それらを実践するために旅行に参加させてくれた家族に感謝します。これからも愉しみながら年を重ねて行きたい。

浜田玲子・十和田市
 初めての参加でしたが、美術館ならではの企画で個人ではなかなか行けない美術館巡りと美味しい食事、大変満喫した旅でした。

原田恵美子・東北町
 何が楽しいか、と言って、家から3日も離れることの楽しさよ!個人ではとても行くことができない美術館を巡るので、なおさらです。お食事も美術館もホテルも感謝につきます。
川村念美術館での学芸員さんの説明はとてもわかり易く勉強になりました。どつとはれ!

1/21(日)まで開催中
第17回鷹山賞児童作品展



青森県内の小中学生に作品を公募した絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」は、鷹山宇一の画業を顕彰するとともに、「子どもたちの感性は風土の中で培われる」との精神の下、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験をとおして豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを体験できることを願って開催し、今年で第17回目を迎えました。

応募総数は57団体から744点。その中から入賞28点、入選74点が選ばれました。

11/11(土) 入賞者授賞式

11月11日(土)に「入賞者授賞式」が行われました。栄えある入賞に輝いた28名を讃えて行われた授賞式では、多くの来賓、保護者、学校関係者の方々が見守る中、入賞者に賞状と副賞が手渡されました。

皆さん、緊張した様子でしたが、大きな声で返事をし、賞状を受け取っていました。

審査委員長 濱田進先生から

鷹山賞も早17回目を迎えました。作品傾向も、日常生活をテーマにしたものから、イメージを大切にしたり明るい色調の作品に変化していきます。特に今回の作品の中には、もう児童絵画とは言えない描写、表現を多々見ることができます。又作品の中には人の心を癒してくれる作品もあり、鷹山賞の領域の広さに驚かされています。

七戸町が大きく変化しているのと同様に、子供たちの見方、捉えかた、表現の仕方も変わってきているのだと確信させられました。

子どもたちの多様性に合わせて美術館スタッフと共に勉強し、鷹山賞が子供たちの励みになればうれいす。

9/28、29 審査会の様子



今回集まった作品も力作ばかり。審査委員を務めてくださった町長・議長・教育長も子どもたちの自由な発想・表現力に驚いていました。

鷹山賞受賞作品



↑寺戸裕亮くん「絶景だった函館夜景」(水彩) 八戸市立白鷗小学校6年

←三上直くん「奇跡」(版画) 青森県立三本木高等学校附属中学校3年



皆さんのドキドキがこちらまで伝わってくるようでしたが、とても立派に賞状を受け取っていました。受賞された皆さん、本当におめでとうございます!

【併催】
「第17回地球環境
世界児童画コンテスト優秀作品展」

一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) と国際認証機関ネットワーク (IGNET) が主催する本展覧会は、世界中の7歳から15歳までの子どもたちを対象に、地球環境世界児童画コンテストを1999年より実施しています。今回の募集テーマは「地球は誰のもの?」です。世界各国の子どもたちがいろんな思いを絵に込めています。本展では優秀作品に選ばれた70点を紹介します。

是非美術館で、多くの方に子どもたちからのメッセージを感じていただきたいです。



【地球環境特別賞】受賞作品
大川心暖さん 愛媛県 小学校4年

遊蝶記

2017年も残すところあと僅かとなり、鷹山宇一先生を偲ぶ「遊蝶記」も17回目を数えました。

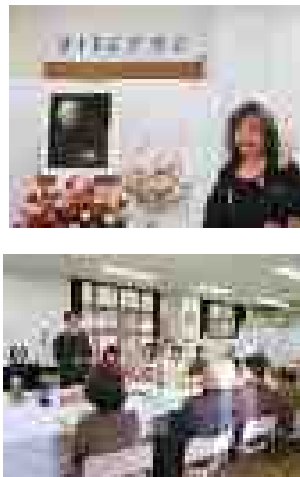
鷹山宇一先生は、1999年10月25日、画家としての人生を全うし、永眠されました。

「遊蝶」は鷹山先生の代名詞的作品名「遊蝶・花」から、「記」はいつまでも忘れないと願いを込めて、「遊蝶記」と命名されています。

鷹山先生は、家族と一緒に過ごす誕生日を大変楽しみにしていたといえます。そのことから当館では、鷹山先生のお誕生日、12月10日を記念日と定め、「遊蝶記」を開催しております。

ご参加いただいた皆様と、ハッピーバースデーの歌を歌い、お誕生日をお祝いしました。また、参加された皆様には今年1年を振り返り、新しい新年への抱負を一言ずついただきました。和やかな雰囲気には会場は包まれ、鷹山先生もきっと喜んでくれたのではないかと思います。

「集い」の様子



最後に「遊蝶記」にお集まりいただきました皆さんと鷹山先生を囲んで記念撮影。今年初めてご参加くださった方々、そしてお馴染みの皆様もお見受けし、楽しいひとときとなりました。

美術館からのお知らせ

次回特別展

「二科青森支部60周年記念展
—鷹山宇一と二科の仲間たち—」

会期：2 / 10 (土) ～ 3 / 11 (日)

二科青森支部結成60周年を記念して青森支部創立会員をはじめとして、現在に至る支部同人の二科出品作品、並びに二科会会員等の作品を一堂に集め展示します。

【関連イベント】

「絵画とピアノのしらべ」

ピアノコンサート

2 / 17 (土)

開場：14時30分 開演：15時

演奏者：西村由紀江 (ピアノ)

会場：鷹山宇一記念美術館 (スペイン民芸資料館)

【チケット】

大人前売り4,000円 / 当日4,500円 / 中高生1,000円 / 小学生以下無料

コンサート主催：二科青森支部

【お問い合わせ】

二科青森支部 事務局 (SIR 建設計画事務所内) 担当：木村

TEL：0177-776-7244

3月17日(土)～3月31日(土)
「第77回国際写真サロン展」

世界各国から写真表現や画像加工を駆使し、独創性と芸術性に富んだ写真作品の「国際写真サロン」から入賞・入選作を展示します。

休館日のお知らせ

【年末年始】

12月29日(金)～1月2日(火)

【展示替え休館】

1月22日(月)～1月24日(水)

【臨時休館】(館内整備のため)

1月25日(木)～1月31日(水)

※職員も不在となります。

【定休日】

毎週月曜日

※月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館

平成29年度
鷹山宇一記念美術館アートクラブ
「木版画」
年賀状をつくろう!

会場：2階工房

当館では、11月・12月に版画文化の継承と地域の中の美術館として子ども達の「生きる力」を育む事を目的とし、毎年、日本版画院青森支部長 藤谷芳雄氏に依頼して、年賀状木版画教室を開催しております。11月25日(土)・12月2日(土)に行った教室の様子をご紹介します。



★★年賀状木版画教室【1日目】☆☆



11月25日(土)は1日目の「年賀状木版画教室」です。
今年も版画の技法は「彫り進み木版画」です。始めに講師の藤谷先生から「彫り進み木版画」の説明がありました。

※「彫り進み木版画」とは、一版多色木版とは違い、少し彫っては刷り、また彫っては刷ると言うように、一枚の木版で彫り進めながら、刷りを行う版画です。そして刷る際にはその都度色を変えていくので、多色版画になります。1日目は版木に考えてきた下絵を移し、どこから彫るか、始めに刷る色は何に



するかを藤谷先生と相談をして、全員が彫りの作業に入る事ができました。早い人は1回目の刷りまで行つて1日目が終了しました。皆さんの作品を見て

ら絵柄は来年の干支である「戌」が大半でした。彫りの作業が多かった1日目は、皆さん彫りに集中していて、工房には板を彫る軽快な音が響いていました。2日目の完成がとても楽しみです。



★★年賀状木版画教室【2日目】☆☆

12月2日(土)は2日目の「年賀状木版画教室」です。
2日目は彫りと刷りを繰り返して完成を目指します。家で、出来るところまで彫ってきた方が大半で、刷りの作業から入る事ができました。順調に作業を進め全員が作品を仕上げることができました。

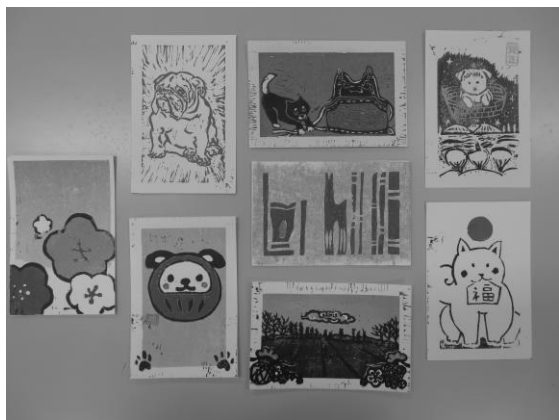


初めて「彫り進み木版画」を体験した方が多く、説明を聞いただけではイメージ出来ず戸惑いがありました。作品が完成した時には、やり方を理解出来たようでした。是非、来年も参加し

たいーとの声が上がリ、とても楽しい「木版画教室」になりました。指導してくださいました藤谷芳雄先生ありがとうございました。



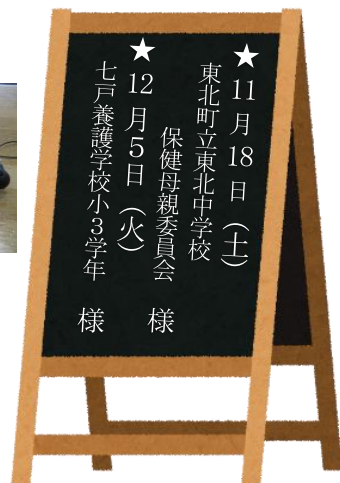
▲小学生の作品です



▲一般の方の作品です

おもてなしワークショップ

おもてなしワークショップでは、随時申込いただき、せんべいやにんにくのストラップ作り教室を開催しております。11月・12月は、せんべいストラップづくりが2件ありました。



★11月18日(土)
東北町立東北中学校
保健母親委員会 様
★12月5日(火)
七戸養護学校小3学年 様



▶東北中学校保健母親委員会の皆様です。せんべいとニンニクの2種類のストラップをつくりました。



▶七戸養護学校小学部3学年の皆さんが館内見学とワークショップに参加し、せんべいストラップをつくりました。



美術館日誌

◆10月◆

- ▼1日(日) 自衛隊青森県遺族会 26名来館
- ▼6日(金) アートプロジェクト会議
(遠藤／七戸分庁舎)
- ▼7日(土) 七彩会
- ▼12日(木) 三館連携打合せ
(遠藤／十和田現美)
- ▼14日(土) 藤崎町生涯学習課 34名来館
- ▼15日(日) 七彩会
- ▼17日(火) 〓20日(金)
三本木附属中学校職場体験
(館長)
- ▼17日(火) 〓18日(水)
兵庫県立美術館出張
- ▼18日(水) 東京出張 (館長・遠藤)
- ▼19日(木) 静岡出張 (館長・遠藤)
上北地方図工部会打合せ
(七戸小教頭川村先生・織川)
- ▼20日(金) 七戸養護学校ワークショップ打合せ
(橋本先生・織川)
- ▼26日(木) 自動ドア点検 (ナブコ)
- ▼27日(金) 田中真紀子講演会出席
(館長／十和田)
- ▼29日(日) 照法寺檀家 10名来館
藤谷芳雄先生 4人展
(遠藤・織川／十和田)

◆11月◆

- ▼1日(水) タミヤ展打合せ
(RAB佐々木局長・館長・遠藤)
- ▼2日(木) 職員健康診断
- ▼5日(日) 渡辺貞一展最終日
- ▼6日(月) 渡辺貞一展作品返却
(遠藤・織川／青森)
- ▼7日(火) 〓10日(金)
展示替え休館
撤去作業 (青スタ葛西氏)
- ▼11日(土) 第17回鷹山賞児童画作品展
授賞式・開催式
(藤谷先生・織川)
- ▼14日(火) ワークショップ打合せ
- ▼15日(水) 老人福祉施設ボナール
8名来館
- ▼18日(土) 八戸常規寺講話 (館長)
東北中母親委員会 6名
見学・ワークショップ
「せんべい・にんにくストラップ」
(織川・江刺家／美術館2階)
- ▼19日(日) 七彩会
- ▼20日(月) 青森出張 (遠藤)
- ▼22日(水) 作品返却立ち会い (遠藤)
タミヤ展打合せ
(タミヤ大石氏・館長・
戸館常務理事・遠藤)
- ▼24日(金) 七戸小学校 2・4年見学
全国流鏝馬女子部 19名来館
講演会 (館長／美術館2階)

◆12月◆

- ▼25日(土) ワークショップ
「版画で年賀状をつくらう!①」
講師 藤谷 芳雄氏
- ▼29日(水) JAF青森支部会員優待施設連絡会出席
(館長／青森国際ホテル)
- ▼1日(金) アートプロジェクト会議
(遠藤／七戸分庁舎)
- ▼2日(土) ワークショップ
「版画で年賀状をつくらう!②」
講師 藤谷 芳雄氏
- ▼5日(火) 七戸養護学校見学・ワークショップ
(織川／美術館2階)
観光連盟総会出席 (館長／青森)
- ▼6日(水) 城南小学校 1・2年見学
- ▼7日(木) 城南小学校 3・4年見学
- ▼8日(金) 城南小学校 5・6年見学
講演会 (館長／三戸)
- ▼9日(土) 七彩会
- ▼10日(日) 遊蝶記
- ▼12日(火) 青森県私立学校審議会出席
(館長／青森)
- ▼13日(水) 消防設備点検 (昭和電気)
中部上北消防署立入検査
NHK東北番組審議会出席
(館長／仙台)
- ▼21日(木)
- ▼26日(火) 上北地方小学校図工部会出席
(織川／六戸町立開知小学校)
- ▼29日(金) 〓2018年1月2日(火)
年末年始休館



▲城南小学校1・2年生見学の様子
学芸員の解説を一所懸命に聞いています



▲全国やぶさめ女子部の皆さん
熱心に絵馬の観覧をしています



▲右：鷹山賞 (小学生の部)
寺戸 裕亮 さん
左：鷹山賞 (中学生の部)
三上 直 さん

2017年も皆様に支えられ、一年を過ごすことが出来ました。

有難うございました。来年も宜しくお願い致します。

— 鷹山宇一が最初に描いた蝶の作品 I —

— 「少年の日の佛陀」の蝶 —

鷹山宇一記念美術館 研究員 對馬 康夫
(日本鱗翅学会会員)

「母への想いが描かれた作品」(鷹山ひばり・鷹山宇一画集2014年版38頁)といわれる「少年の日の佛陀」。これがおそらく鷹山宇一(以下「宇一」という)が油彩で初めて蝶を描いた作品と思われます。制作されたのは55年(昭和22年)、終戦の二年後です。年譜によるとこの年宇一は、第32回二科展(9月1日〜19日、東京都美術館)に「黄昏」、「少年の日の佛陀」、「めざめ」の三作品と第2回絶対対象派協会展(10月21日〜25日、銀座・北荘画廊)に「軟風」、「たそがれの歌」、「朝」の三作品を出品しています。これら六篇の作品のうち蝶が描かれている作品は「少年の日の佛陀」と「たそがれの歌」の二篇です。(ただし「軟風」は不明)。制作されたのはどちらが早いのかはわかりませんが、発表された日付からは「少年の日の佛陀」が先だと思われま

ます。ところで、描かれた蝶の数は「少年の日の佛陀」18頭(注)に対して「たそがれの歌」は44ないし45頭と驚くべき多さです。この年以降半世紀に渡り「蝶の画家」としての地位を不動のものとしていく宇一ですが、一つの作品に描いた蝶の数は多いものでもせいぜい15、16頭で20頭を超えるものは無かったと思われま

す。改めて調べ直してみると、1955年(昭和30年)から始まった「遊蝶・花」シリーズの55年代の作品に20頭、そして宇一が亡くなる前年の56年(平成9年)の「古城幻影」に23頭の蝶が描かれていました。偶然なのか意識されていたのか、蝶を描き始めて丁度50年後の作品が呼応するかのように二番目に多くの蝶が描かれていたのです。宇一が最初に蝶を描いた作品と生涯で最も多くの蝶を描いた作品が55年(昭和22年)に発表されていたのです。しかも祝福すべきことにこの年宇一は妻帯してからです。三重に記念すべき年だったと思われま

す。さて「少年の日の佛陀」に描かれた蝶は何という名前(種名)の蝶なのでしょう。趣味で青森県内を中心に蝶の分布・生態を調べている者としては一層興味をそられるところ

です。蝶の種類数については温暖化などの影響で毎年変動しており、正確に述べられませんが、青森県内からは20種、日本全国からは33種、世界からは約二万二千種が記録されています。描かれた蝶によっては実物と大きさ、翅の形、色彩、斑紋が不明なものもあり、また同じ色彩の蝶でも例えば緑色の小さな蝶ミドリシジミの仲間には日本産でも8種類もあり、翅の裏面の微妙な斑紋の違いから同定されるものもあります。それで同定できないものもありました。12頭の名前(種名)が判りました。描かれた蝶の外形をトレースして番号を付し、名前を示しました(図1)。全て日本産と思われま

した。私の手持ちの標本で描かれた蝶を再現してみました(写真1)。不明な蝶6頭は例えば赤いシジミチヨウと思われたものはアカシジミ、ベニシジミで代用し、()内に代用した蝶の種名を示してあります。どうでしょうか、色彩、配置、さす

がとしか言いようがありません。最後に「たそがれの歌」に描かれ

たような多くの蝶の標本を宇一はどのような経緯で入手することができたのでしょうか。想像するに、戦後の食糧難の時代、糊口を凌ぐために出版社から蝶の図鑑の面の依頼があったのではないのでしょうか。戦時中禁じられた昆虫採集が戦後になって復活し、昆虫少年たちの採集意欲を駆り立てるきっかけとなったのは蝶をはじめとする昆虫のカラー図鑑だったのです。私が所蔵する古い図鑑は昭和30年(1955年)に出版された江崎梯三共著の「学生版原色昆虫図鑑」(北隆館)ですが、図版は全て手描きです。宇一にその依頼があったとすれば、それを神(仏)の思し召しとして作品の糧とすべく修練に励んだのではないのでしょうか。ピンで止められた多くの蝶の展翅標本を宇一は作品の中で解放しようとしたのかも知れません。

注)蝶は1頭、2頭と数えます。

※本論考は「鷹山宇一画集」(2014)に依っています。なお敬称は省略させて頂きました。

★日本鱗翅(りんし)学会会員の對馬康夫氏(美術館研究員委嘱)より鷹山宇一先生の絵画に登場する「蝶」について、専門的な観点から執筆して頂きました。本号と次号の2回の連載となります。

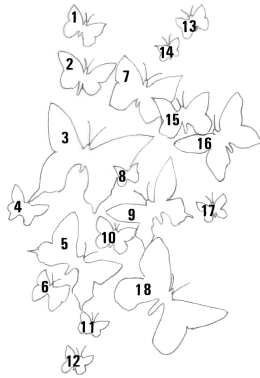
★平成23年に三沢市在住の赤石一路様より貴重な蝶のコレクションの寄贈を受け、美術館ロビーに展示しておりますので、ご自由に扉を開けて美しい蝶を鑑賞できます。

右：写真1
「少年の日の佛陀」
に描かれた蝶の配
置を標本で再現



右下図1:「少年の日佛陀」に
描かれた蝶の名前(種名)

1. ダイセンシジミ
 2. ツマキチョウ
 3. カラスアゲハ
 4. サカハチチョウ
 5. ギフチョウ
 6. 不明(ウラナミアカシジミ)
 7. ヒオドリチョウ
 8. 不明(アカシジミ)
 9. アゲハチョウ
 10. ミドリシジミ
 11. 不明(ベニシジミ)
 12. 不明(ベニシジミ)
 13. ベニシジミ
 14. チョウセンアカシジミ
 15. 不明(スジホソヤマキチョウ)
 16. 不明(スジホソヤマキチョウ)
 17. ヒサマツミドリシジミ
 18. ウスバシロチョウ
- ※()は再現に用いた標本



少年の日の 佛陀

油彩 1947年
66.0×53.0
第32回
二科展出品

新規会員入会お誘いのお願いと 友の会会員登録更新のお願い

平成29年も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新しい年も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様にご協力いただけたら幸いです。講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。なお、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

特会典費

- (個人) 年会会費 3千円
①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
②ミニシアムグッズ1割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

○特別会員

特会典費

- (個人・法人) 年会会費 1万円
I 一般会員特典に加えて個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
II 新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

特会典費

- (個人・法人) 年会会費 2万円
I 一般会員特典に加えて個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈
③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

◎お知らせ とお願

★会費の納入は随時受け付けておりますが、平成30年3月31日迄に新規会員となった方は平成31年3月31日までの会費となります。
新規会員入会のお誘い宜しくお願

編集後記

★会報第89号をお届けします。本年も友の会各位、鷹山宇一記念美術館のご協力を頂き充実した会報をお届け出来ましたことを深く感謝申し上げます。有難う御座いました。友の会発展のためにお願